

平成 26 年度事業報告書

今、日本では、世界に類を見ない急激な速度で、少子高齢化人口減少社会が到来しようとしています。言うまでもなく長寿は長年の願いであり、戦後の日本は、生活水準の目覚ましい向上によって、多くの国民が長生きをするようになり、これを実現しました。

誰でも適切な医療や介護を受けることができる日本の社会保障制度の充実、この長寿社会の実現に大きく寄与しましたが、団塊の世代が後期高齢者となる 2025 年を迎えるに当たって、今度はその制度の持続可能性を問われることになりました。

平成 26 年度は、社会保障制度の持続可能性を高め、その機能がさらに高度に発揮されるよう「社会保障と税の一体改革」として鋭意議論がなされて、様々な報告が出されたところでもあります。

なかでも、当法人の運営に大きな影響が予測される「介護報酬改定」であります。

我が国の介護保障制度については、制度施行後 10 年以上経過し、サービスの利用者数が施行当初の 3 倍となるなど、高齢者の暮らしを支える制度として定着している。一方で、今後の急速な高齢化の進行に伴い、医療ニーズの高い高齢者や重度の要介護者の増加、単身・高齢者のみ世帯の増加への対応、介護人材の確保等喫緊の課題への対処として「介護報酬改定」が平成 27 年度から実施されることとなりました。

さらには「社会福祉法人のあり方」についても報告がなされ、福祉サービスの供給体制の整備及び充実を図るため、経営組織のガバナンスの強化、事務運営の透明性の向上等の改革を進めるとともに、介護人材の確保を推進するための措置等を講じる法律案としてとりまとめられたところでもあります。

当法人の平成 26 年度の事業につきましては、法人の理念であります、「“今を生きる“すべての入所者・利用者様一人ひとりへ、優しく温かみのある看護、介護に真摯に取り組み、地域の皆様から信頼され愛される施設を目指します」の実践に向け全役職員が一丸となり努めてまいりました。

平成 26 年度は、法人経営において諸事情はありましたが、非常に厳しい収支決算になったことを報告いたします。平成 26 年度決算では、経常活動による収支予算額 1,164 百万円に対し、決算額は 1,122 百万円(予算比△42 百万円)、経常収支による支出予算額 1,094 百万円に対し決算額 1,068 百万円(予算比△26 百万円)となり、当法人設立以来、初めて約 12 百万円の赤字決算になりました。要因は、老健施設において職員間の連携の徹底不足により、入居率が年平均約 5 ポイント落ち込んだことと、法人運営上補完とした新規雇用及び育休、休職者等の対応による職員補充が重なり人件費率が大幅に上がったこと等によるものです。来年度は、主要因とその他の要因の検証を適確に行い、対策を講じ改善を図りながら、平成 27 年度改定の介護報酬の下で、安定した法人運営が確保できる収支決算となるよう取組んで行く所存であります。

平成 26 年度の事業報告としては、鳥取県より平成 25 年 9 月に鳥取県から改善措置命

令を受けた事項の対処がありました。当法人は、改善措置命令を真摯に受けとめ、鳥取県福祉保健部の指導、協議の下、全指摘事項の改善を実施いたしました。去る平成27年3月10日の鳥取県議会福祉生活病院常任委員会におきまして、鳥取県総務部長より、「改善命令事項について概ね改善できた」と判断できるため、……了とする」旨の見解があり、改善措置命令事項のすべてが終了致しました。今後、かかることのないよう、法令、通達等の理解を深め、不明な点につきましては鳥取県、八頭町等の指導を仰ぎながら、適切な対応を行ってまいります。

平成26年度のその他の主な取り組みとしては、地域密着の取組、新会計移行準備、八頭町委託事業の予防介護の取組、法人運営のガバナンス強化、事業運営の透明性向上、職員のコンプライアンス意識向上、人材育成並びに明るい職場づくり等に取り組んでまいりました。平成26年度に厚生労働省より示されている介護制度及び社会福祉法人に関連する法令の改定案及び新制度案を鑑み、対策強化並びにこの地域における介護事業の法人の役割について真剣に創意工夫を重ね、事業活動に努めました。

地域密着の取組は、平成27年3月に各施設に「相談窓口」設置し、地域の方が医療、介護のことで不安に思っておられること等を、当法人が今日まで蓄えたノウハウを活かし、地域の皆様へ貢献できるよう相談に取り組んでまいります。平成27年度事業においても継続して取り組んでまいります。

新会計移行準備については、移行準備委員会、理事会、監事会にて勉強会の開催並びに税理士の指導を仰ぎ、移行準備を進め体制を盤石に整えました。新会計制度の規定を遵守し、適正な事務処理を遂行いたします。

予防介護については、八頭町委託のはつらつ教室を、年間36回開催し（毎週日曜日）予防事業に取り組みました。今後も、予防介護の委託事業に積極的にかわり地域貢献活動に取り組んでまいります。

法人運営のガバナンス強化については、役員と管理監督者による施設長会を、常勤理事、4施設の施設長及び本部課長により隔月開催。法人運営の現状と運営方針を共有、現状の問題点、改善点等を議論し、全職員に浸透するよう取組みガバナンス強化に取り組みました。

事業運営の透明性の向上については、年4回開催の監事会において、法人運営の監査を受け、監査指摘・指導事項は評議員会・理事会に報告して改善に取り組みました。更に当法人の事業運営の取組について、八頭町・若桜町の担当課、他の法人の管理者を招き、多くの関係者の皆様へ、当法人運営について他意見交換等を実施いたしました。職員に対しては、法人にかかわる通達や関係事項等を全職員が認識し共有する体制づくりに取り組みました。また、当法人の運営状況全般をホームページへ掲載し、皆様へ公開しております。

職員のコンプライアンス意識向上については、役員による勉強会の開催を増やし、法令、規程の遵守の徹底を図りました。

人材育成並びに明るい職場づくりにおいては、研修委員会による公正な研修仕分けの実施、外部研修参加者は当初計画を上回る研修参加となりました、各種委員会による勉強会

も定例的に開催しました。外部研修参加、内部伝達講習会、各種委員会へ参加・開催し、多くの職員が参加することが、コミュニケーションの場となり、人材育成と明るい職場づくりを推進する力となりました。

その他として、当法人4施設のうち3施設の施設長が交代しました。2名は当法人の職員を昇格登用、1名は他法人管理監督者経験者を採用しました。この昇格登用と他法人からの採用により、職員のモチベーション向上と法人の活性化の相乗効果となり、「新しい風の吹く」組織づくりを進めております。

平成26年度は主治医の交代がありました。主治医として5年間お世話になりました大源医師が平成26年12月31日付にて退職され、新たな主治医として藤崎医師へ平成27年1月1日より勤務いただいております。

最後に、平成27年2月23日午後3時40分頃、特養に設置してある室外機より出火があり火災が発生しました。室外機のための火災であったため間もなく鎮火し、利用者及び施設職員ともに全員無事でありました。

出火原因について、室外機製造メーカーのダイキン工業等へ、調査確認中であります。火災時の対応については、年2回の訓練の成果によりマニュアルに沿った適切な対応を特養の職員が実施しました。今後も災害等の対応については、もしものことが発生しましても、皆様が安心して暮らしていただけますよう体制を維持してまいります。

1. 平成 26 年度の事業概況

(1) 利用率

	老健	特養	ケアハウス	小規模 特養	多機能	通所介護	通所 リハビリ	訪問介護
利用率(%)	90.5	96.1	87.9	96.1	78.6	72.4	83.2	—
前年比	△4.7	△1.5	△7.5	△0.8	+0.4	+0.5	+1.0	—
平均(人)	69.0	76.9	44.0	27.9	19.7	29.1	16.7	11.5
前年比	△3.3	△1.2	△3.6	△0.3	+0.1	+0.4	+0.3	+2.0

平成 26 年度年間利用率は、老健とケアハウスが、それぞれ 4.7 ポイント、7.5 ポイントと大きく減少した。訪問介護事業は、2.0 ポイントの増加、その他の事業は、ほぼ前年度並みに推移した。

(2) 利用者の目標

利用者がその日の目標を立て、目標に向かって行動することをサポートすることで、利用者が目標達成の喜びを感じていただく取組を実施した。平成 25 年度に引き続き「自己選択」「自己決定」「自己遂行」ができるよう取組み、「すこやかにいけば元気になる、今日を生きる、明日を生きる」をコンセプトとして支援を行いました。

通所介護の利用者で結成した「かっぼうず」（音楽隊）は、老健だけでなく他の 3 施設に訪問し、特に特養では地域交流室の舞台に立ち演奏を披露しました。この取組は、演奏の練習を、根気よく目標を掲げ計画的に継続して行い、利用者と職員の自助と共助が一体となり出来上がったものでありました。通所利用者の達成感は大きな感動があったと確信しています。また他の入居利用者にも、より良い刺激であったと思料します。

リハビリ等の取組においても、機能訓練等で頑張った姿を廊下に掲示されることが、利用者の楽しみと励みになっています。このように、目標を立て、意欲を持って機能訓練等に取り組みされる利用者が増えてきました。

「すこやかにいけば元気になる」取組みは、効果が表れてきています。

(3) 新会計基準への移行準備

平成 26 年度において新会計基準への移行準備を、新会計準備委員会、理事会、監事会等にて勉強会を重ね、また、税理士、鳥取県及び鳥取県社協の指導を仰ぎ盤石の体制を整えました、平成 27 年 4 月より新会計基準で会計処理を適切に行ってまいります。

(4) 収支状況

介護保険収入及び利用者負担収入は、老健が 351,089 千円（前年比△15,390 千円）、特養が 365,869 千円（前年比△6,029 千円）と前年を下回った。ケアハウスは、利用者負担収入が 39,507 千円（前年比△4,797 千円）と前年を下回った。その他の通所介護・訪問介護・小規模特養・小規模多機能等の事業所は、若干の増額はあるものの平成 25 年度とほぼ同額程度の介護保険収入及び利用者負担収入であった。法人全体の介護保険収入及び利用者負担収入は、1,027,393 千円（前年比△23,089 千円、予算比△30,754 千円）となり減収となった。

支出においては、人件費が前年比 34,431 千円（予算比△11,160 千円）の増加、事務費・事業費が前年比 19,744 千円（予算比△1,344 千円）増加し、最終の当期活動収支差額は、△11,669 千円となり、当法人設立以来初めての赤字決算となった。

前述の事業報告にて説明のとおり、老健の入居率が落ち込んだことと、法人運営上の補完と、休職者等の対応のため職員採用が重なり人件費が増加したことが主要因となり赤字決算になったものである。

2. 平成 26 年度の課題への対応

(1) サービスの質の向上

① 専門的知識の習得

平成 26 年度も研修計画に沿って多くの研修を実施し、職員のレベルアップに取り組みました。また、自己啓発意欲を持って、働きながら上位の資格に挑戦する職員の中から、26 年度は介護福祉士 3 名・管理栄養士 2 名・介護支援専門員 2 名の合格者がありました。

また介護職員の中から看護職取得を目指す職員があり、東部医師会看護専修学校の合格者が平成 25 年度に引き続き、平成 26 年度も 1 名ありました。平成 27 年度は計 2 名の職員が准看護師の資格取得を目指しています。(奨学金制度利用で資格取得後 5 年間は法人在籍規程)

(2) 施設運営

① 効率運営

光熱水費(4 施設合算)

(単位：千円)

	電気代	上下水道代	ガス代	合計
年額	23,181	9,829	6,314	39,324
増減額	+1,433	△2,595	△21	△1,183
前年比	106.5%	79.1%	99.6%	97.0%

効率化を図りながら、経費の節減を目標に掲げてきました、結果は 4 施設の電気代は、気候の動向にもより 1,433 千円増額した、水道代とガス代が減少した。

全施設の光熱水費は 39,324 千円となり、前年度と比べ 1,183 千円減少した。

但し、上下水道料金は八頭町の基本料金の引き下げが大きく寄与した、今後節水機器投資効果の検証も図って行きたい。

② 地域密着運営

地域密着の面では、平成 26 年度も利用者・ご家族・地域の多くの皆様へおいでいただき、盛大に納涼祭を開催、納涼祭は夏休み最後の郡家周辺のイベントとして定着してきた(チケットの売上げからの推定で、職員を除いて 600~700 名の方においでいただいた)。また、きたやまも月見会を開催し、利用者・ご家族・多くの地域の皆様においでいただき盛大な会となりました。

一方、町内各保育所、郡家東小学校、郡家西小学校、中央中学校わくわくこおげの皆様とも、例年通りに施設に来所いただき交流を進めました。

各施設ともたくさんのボランティアの方にお世話になりました。全施設で平成 26 年度 1 年間に団体 22 グループ、個人ボランティア 15 名、延べ 452 名の方においでいただきました。平成 27 年 3 月 13 日に開催したボランティア交流会には、7 団体 21 名の方の参加があり、活発な意見交換や歌の披露等を楽しみ開催いただきました。

地域の方に支えていただく取り組みの一環として、規格外等で食べることに全く問題ない野菜等をいただき、入所者の皆様に地元の食材を食べていただき元気になっていただくような取組を実施しました。細田監事を中心に、大門地区から出荷できない花御所柿を 95 箱いただき、入所者、職員がありがたくいただきました。きたやまにおいても 4、5 名の近所の方から、厚意で野菜の差し入れを頂いております。

3. 理事会・評議員会・監事会等

(1) 理事会

日付		報告・議案事項
1	H26. 4. 16	第1回理事会 理事6名、監事3名出席 議案①給与規程の改定について
2	H26. 5. 23	第2回理事会 理事7名、監事3名出席 報告①改善措置命令の現況報告 ②監事監査報告 ③債権放棄報告 議案①平成25年度事業報告について ②平成25年度決算報告について ③定款の変更について ④改善措置命令の加工等代金支払における民事調停提出について
3	H26. 9. 26	第3回理事会 理事7名、監事3名出席 報告①平成26年9月現在の事業報告 ②平成26年8月の会計報告 ③改善措置命令の現況報告 ④監事監査報告 議案①新会計移行に伴う経理規程の変更について ②評議員の退任・選任について ③移乗用リフトの購入について ④就業規則の変更について
4	H26. 9. 30	第4回理事会 理事7名(内3名書面出席) 議案①介護老人施設きたやまの管理者交代について
5	H26. 12. 15	第5回理事会 理事6名、監事3名出席 報告①平成26年12月現在の事業報告 ②平成26年10月の会計報告 ③監事監査報告 ④新会計移行作業の進捗状況について 議案①食材加工料にかかわる民事調停提出の件について ②きたやまの土地賃借料の改定について ③就業規則の変更について ④老健施設常勤医師の退職及び新任(交代)について ⑤老健施設常勤医師大源ドクターの退職に伴う退職報奨金支給について ⑥平成26年度下期賞与支給について
6	H27. 1. 27	第6回理事会 理事7名、監事3名出席 報告①民事調停の進捗状況について ②加藤憲雄老健施設長の退職について ③加藤憲雄氏の理事辞任について ④中山勝恵ケアハウス施設長の退職について 議案①老健施設長の退職に伴う施設長の交代(新任)について ②ケアハウス施設長の退職に伴う施設長の交代(新任)について ③育児・介護休業等に関する規程の一部改正について
7	H27. 3. 17	第7回理事会 理事5名(内3名書面出席) 議案①福祉車輛の譲受について

8	H27. 3. 27	<p>第8回理事会 理事5名、監事3名出席</p> <p>報告①平成27年3月現在の事業報告 ②平成27年2月の会計報告 ③改善措置命令の終了報告 ④監事監査報告</p> <p>議案①平成26年度資金収支補正予算(案)について ②軽費老人ホームにおける運営費の残高管理について ③平成27年度役員報酬額の決定について ④平成27年度事業計画(案)について ⑤平成27年度資金収支予算(案)について ⑥ケアハウス施設長の交代(解任及び新任)について ⑦給与規程の一部改正について</p>
---	------------	--

(2) 評議員会

日付		報告・議案事項
1	H26. 5. 23	<p>第1回評議員会 評議員11名、監事3名出席</p> <p>報告①改善措置命令の現況報告 ②監事監査報告 ③債権放棄報告</p> <p>議案①平成25年度事業報告について ②平成25年度決算報告について ③定款の変更について ④改善措置命令の加工等代金支払における民事調停提出について</p>
2	H27. 3. 27	<p>第2回評議員会 評議員12名、監事3名出席</p> <p>報告①平成27年3月現在の事業報告 ②平成27年2月の会計報告 ③改善措置命令の終了報告 ④監事監査報告</p> <p>議案①平成26年度資金収支補正予算(案)について ②平成27年度事業計画(案)について ③平成27年度資金収支予算(案)について</p>

(3) 監事会

日付		指摘事項
1	H26. 5. 15	<p>第1回監事会</p> <p><u>総評</u> ○平成25年度は補助金の返還を26百万円行うなど、予期せぬ事態があったものの当期の利益金45百万円計上され、経営努力に敬意を表します。 ○会計、決算業務について経理規程等に基づき、正しく行われていることを認めました。 ○懸案である鳥取県の監査にかかる諸問題を解決に向けて鋭意進めておられますが、いまだ解決に至っておりません。早期終結されるよう努めていただきたい。</p> <p><u>個別意見</u> ○きたやま施設の賃借契約物件の登記。 主に駐車場、施設への通路として使用するため、グレース株式会社から賃借している土地は、賃借権の登記がされておらず、第三者對抗要件の措置がなされていない。地権者双方が協議して賃借権登記をされることが望ましい。</p>
2	H26. 8. 4	<p>第2回監事会</p> <p>○新会計制度の勉強会。</p>

3	H26. 8. 28	第3回監事会 ○特記事項なし。
4	H26. 11. 27	第4回監事会 総評 ○平成26年10月末の決算状況は7百万円の赤字決算であり、前年同期と比較すると50百万円の減収である。これには諸要因があるが、今後の法人の運営に万全を期され経営を行われるよう望みます。 ○平成27年度からの新会計への移行は順次進められており敬意を表します。引き続き順調に移行できますよう努めていただきたい。 個別意見 ○理事会議事録について 平成26年9月30日開催の理事会の議事録は、議長の選任、議事録署名人の指名、出席人数等の記載がないなど、不備が認められるので改めて作成されるよう求めます。
5	H27. 3. 16	第5回監事会 ○特記事項なし。

(4) 平成26年度改善措置命令(H25.9.4発令)記録

	日付	内 容
1	H26. 8. 27	改善措置命令に対する県との打合せ
2	H26. 9. 12	H26. 8. 27 の県福祉保健部の見解及び指導に対する回答書提出
3	H26. 12. 15	改善措置命令報告書提出(土地賃借料、食材加工料)
4	H26. 12. 26	鳥取簡易裁判所へ調停申立書提出
5	H27. 1. 22	民事調停
6	H27. 3. 2	改善措置命令報告書提出(土地賃借料、食材加工料、役員の責任の所在の対応)
7	H27. 3. 10	改善措置命令結了

4. **法人主体行事・事業等**

	日付	内 容
1	H26. 4. 1	辞令交付式
2	H26. 4. 9	ケアハウス避難路整備工事
3	H26. 4. 11	節水コマ取付工事(ケアハウス、特養、きたやま)
4	H26. 5. 13	鳥取労働局 男女雇用機会均等法、育児・介護休業法に基づく報告聴取
5	H26. 8. 12	県長寿社会課 無料低額老健施設利用事業監査
6	H26. 8. 24	27年新卒採用試験(1名)
7	H26. 8. 31	すこやか合同納涼祭
8	H26. 9. 20	きたやま月見会
9	H26. 10. 1	県長寿社会課 利用料設定の調査(ケアハウス)
10	H26. 10. 5	運動会(場所：八東総合運動公園)
11	H26. 10. 11	27年新卒採用試験(2名追加)

12	H26. 10. 27	通所介護事業所意見交換会
13	H26. 11. 10～11. 14	特養 10周年記念ウィーク
14	H26. 11. 11	東部福祉保健事務所 実地指導(老健・ケアハウス)
15	H26. 11. 14	正職員登用試験(2名)
16	H26. 11. 15	特養 秋祭り
17	H27. 1. 5	新年仕事始め式
18	H27. 2. 21	安全大会(場所：八頭町中央公民館)
19	H27. 3. 11～3. 12	県福祉保健課 社会福祉法人指導監査(平成 24・25 年度)

5. 役員・施設長・医師研修等

日付	会議・研修名	場所	参加者
1 H26. 6. 6	福祉施設経営法人連絡会	鳥取県福祉人材研修センター	森本、加藤、野田
2 H26. 6. 6	社会福祉法人経営戦略セミナー	鳥取県福祉人材研修センター	森本、加藤、野田
3 H26. 6. 11～6. 14	日本老年医学会学術集会	福岡市	井上医師
4 H26. 8. 5	福祉サービス苦情解決事業研修会	ハワイアロハホール	野田 (苦情解決第三者委員) 細田、垣田
5 H26. 9. 6	救急医療講習会	東部広域行政管理組合消防局	森本
6 H26. 9. 6～9. 7	全国高齢者ケア研究会 全国地域包括ケア研究会	ビッグシップ	加藤
7 H26. 9. 25	社会福祉法人会計実務研修会 監事監査研修	鳥取県福祉人材研修センター	森本 (監事)澤田、細田、 山根 ^貴
8 H26. 10. 3	E 式考課評価者研修	京都市	山根 ^竜
9 H26. 10. 7	消防法改正に伴う説明会	東部消防局	中山
10 H26. 10. 14	企業・職域部員と企業代表者研修会	八頭町中央公民館	加藤
11 H26. 10. 15	原子力災害避難計画説明会	倉吉未来中心	加藤
12 H26. 10. 15～10. 17	全国老人保健施設大会 岩手	盛岡市	森本、井上医師
13 H26. 10. 17～10. 18	オールジャパンケアコンテスト	米子コンベンションセンター	山根 ^英 (監事) 澤田、山根 ^貴
14 H26. 10. 18	〃	〃	加藤、中山、山根 ^竜 (評議員)垣田、西村、 山本 ^正
15 H26. 10. 25	全国老人保健施設協会 認知症ケア研修会(医師対象)	京都市	井上医師
16 H26. 11. 11	福祉施設の為のリスクマネジメント研修会	倉吉未来中心	山根 ^竜

17	H26. 11. 12	施設における高齢者虐待防止・権利擁護研修会	倉吉体育文化会館	山根 ^電
18	H26. 11. 18	介護顧客獲得ノウハウ公開セミナー	大阪市	山根 ^英 、山根 ^電
19	H27. 1. 19	社会福祉法人役職員研修会	鳥取県福祉人材研修センター	山根 ^英 、森本、加藤、谷口 (理事)和田 (監事)澤田、細田
20	H27. 2. 10	企業・市町村トップ人権セミナー	とりぎん文化会館	浜岡
21	H27. 2. 20	八頭町同和教育推進会議の企業研修会	船岡地区公民館	森本
22	H27. 3. 5 ～3. 6	全国老人保健施設協会 医師研修会	静岡県熱海市	井上医師
23	H27. 3. 6	退職、解雇をめぐるトラブルと法律実務	米子コンベンションセンター	山根 ^電
24	H27. 3. 9	不在者投票管理者説明会	県庁講堂	浜岡、山根 ^電
25	H27. 3. 9	労働契約法等セミナー	さざんか会館	森本
26	H27. 3. 11	県老協総会	倉吉体育文化会館	谷口
27	H27. 3. 12	認知症ケアに関する多職種連携研修会	倉吉未来中心	山根 ^電
28	H27. 3. 13	老人福祉施設職員研修会	倉吉未来中心	森本、山根 ^電
29	H27. 3. 21	介護報酬改定直前セミナー	倉吉未来中心	浜岡

6. 教育事業

(1) 平成 26 年度研修参加実績

	主 催	回数	参加人数	内 容
1	鳥取県	30 回	109 名	喀痰吸引、食中毒発生防止、虐待防止、認知症介護実践者、介護認定調査員現任 等
2	全国・鳥取県老人福祉施設協議会	14 回	27 名	施設職員(看護・介護)、介護力向上、スキルアップ 等
3	全国・鳥取県老人保健施設協会	3 回	10 名	老健大会、支援相談員部会、アセッサー 等
4	鳥取県社会福祉協議会	40 回	73 名	階層別、介護専門職、看護職員、法人会計実務、ボランティア、認知症、喀痰吸引等、苦情受付担当者 等
5	小規模多機能型居宅介護事業所連絡会	3 回	5 名	事業所連絡会、初任者対象、ケアセミナー、多職種連携 等
6	日本・鳥取県介護福祉士会	12 回	17 名	介護福祉士初任者・中堅職員、介護福祉士養成実習施設実習指導者 等
7	その他	48 回	89 名	オールジャパンケアコンテスト、健康保険委員、全国デイケア研究大会、雇用管理責任者 等
	計	150 回	330 名	
8	法人研修	11 回	全職員対象	新人・中途採用職員研修、交通安全講習、法令順守等研修、人権研修

7. 福利厚生

日付		内 容	実施場所	人 数
1	H26. 4. 3	夜勤者・新入職員健康診断	老健	77 名
2	H26. 4. 4	夜勤者・新入職員健康診断	特養	
3	H26. 10. 1	健康診断	特養	222 名
4	H26. 10. 6	健康診断	特養	
5	H26. 10. 8	健康診断	老健	
6	H26. 8. 8～9. 10	制服の追加補充		全職員
7	H26. 11. 13～11. 14	インフルエンザ予防接種 (井上医師)	特養医務室	214 名

8. 施設(事業) ごとの報告

(1) 介護老人保健施設

目 標 項 目	実 績
①自立生活と在宅復帰への支援。	<ul style="list-style-type: none"> ○入所者の重度化と家庭介護力、家庭環境に課題があり在宅復帰困難者が多く在宅復帰への取り組みが進捗しなかった。 ○入所者の状態（疾患等）に合ったチームケアの実践に取り組んだ。 ○利用者ごとに目標、支援計画を多職種（医師、看護職、介護職、療法士、介護支援専門員）で協働して作成して医療・看護・介護・リハビリを提供した。
②介護レベルアップ。	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な研修に参加し、伝達講習会を開催しフィードバックによる職員のレベルアップに取り組んだ。
③個別介護の充実。	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月のスタッフ会、チーム会で入所者へのケアについて振り返り、改善してチームケアの充実を図った。
④感染症の防止。	<ul style="list-style-type: none"> ○インフルエンザ感染が入所者、職員に数名あったが、マニュアルに沿い面会制限等の対応を実施し感染拡大を防いだ。
⑤身体拘束廃止に向けての取り組み。	<ul style="list-style-type: none"> ○身体拘束はなかったが、継続して尊厳・人権・抑制について研修し、あらゆる抑制等をしない体制を検討していくこととした。
⑥ターミナルケアの取り組み。	<ul style="list-style-type: none"> ○ターミナルケア 8 件実施した。 ○看取り計画書を協働して作成し、計画書にそってケアした。 ○外部研修等を通して「死・ターミナルケア」について学び、現場における取組を考え実践した。
⑦安全・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ○法定の避難訓練を年 2 回実施し非常時に備えた。 ○備蓄品等の検討に課題がある。

(2) 特別養護老人ホーム

目 標 項 目	実 績
<p>①自立に向けたケアの取り組み。</p>	<p>①口腔ケア ○舌ブラシ・歯ブラシ・スポンジ等でブラッシング、マウスジェルでの口腔内保湿をケアプランに反映させて実施した。 ○食事前に舌の運動や舌下腺の刺激等を行い唾液の分泌を促した。おやつに咀嚼を促す訓練食を提供するなど嚥下・咀嚼能力低下予防に努めた。咀嚼訓練により、キザミ食から一口大食に、軟飯から普通飯に変更できた利用者があったが全体として十分とは言えなかった。 ○口から食べることを支援する取り組みとして、義歯の作成や調整を進めた。</p> <p>②排泄ケア ○トイレでの自然な排便を目指して介護力向上講習会で学んだことを基に水分摂取量や運動の実施に取り組んだ。全体として水分摂取量は1200～1300mlに上がったが、目標の値へは届かなかった。 ○尿測を行い、個々の排泄リズムをつかみ、トイレへ誘導する取組を実施した。平成26年度中においては、おむつ外しに繋げることは出来なかった。</p> <p>③リハビリテーション ○リハビリ体操は毎日実施できるようになった。個々に施設内を散歩する利用者もあるが、全体としてはまだ一部にとどまっている。また、歩行器を3台購入し、利用者が歩行訓練のリハビリに取り組んだ。</p> <p>④ターミナルケア ○ターミナルケアを6名実施した。 ○看取り計画書を職員が協議を重ね作成し、計画書に沿ってケアを行った。</p>
<p>②職員の資質の向上と人材育成。</p>	<p>○外部の各種研修会、勉強会、セミナー等に延61名が参加し専門知識や技術の習得に努めた。特に介護力向上講習会には年間6回参加して科学的介護を学び、他の介護職員に伝達し、日常のケアに役立つよう取組んだ。 ○伝達講習会を毎月の実施するよう計画したが、計画どおりには実施できなかった。研修効果を高める取り組みに課題が残った。 ○平成26年度ユニットリーダー研修に1名参加。開設以来今期末までの間に、11名の受講者となった。受講者の異動等を勘案し、今後も積極的に研修へ参加予定。</p>
<p>③地域貢献。</p>	<p>○ボランティア・介護実習等(慰問8団体8回、音楽療法1名6回、介護実習11名、介護体験4名)の受け入れを行った。慰問ボランティアでは、新たに2団体(鳥取県警音楽隊、宝田みどりグループ)の来所があり、利用者、家族、他施設の方々に喜んで頂いた。 ○職場体験学習(中央中学、船岡中学2年生)と交流学习(郡家西小5年生)を受け入れた。</p>

④安全衛生・災害対策。	<p>○移乗用リフトを2台（固定式、床走行式）導入し、腰痛予防や介護負担の軽減に努めた。移乗用リフトの間違った操作は重大な事故に直結するため、導入時には業者による操作説明会を3回実施した。</p> <p>○火災発生時に効果的な対応がとれるよう消防訓練を4回実施した。また、AEDを使用した心肺蘇生講習を1回開催した。</p>
⑤経営改善。	<p>○年間の長期入所利用率は96.1%（目標96.5%）、短期入所利用率は69.7%（目標85%）となり、共に目標値に達しなかった。特に短期入所において利用率が低迷している。</p> <p>○年間の光熱水費について、上下水道代及びガス代は前年度を下回ったが、電気代は使用量、料金ともに前年度を上回った。</p> <p>○消耗品について、より良い物をより安く購入するように努めた。</p>

(3) 地域密着型介護施設

◎小規模特別養護老人ホーム

目 標 項 目	実 績
①個々に合った生活援助を行うため、利用者の状態・能力を分析する。	<p>○ユニットリーダーを中心に各町での会を開き、利用者の個別援助について話し合った。</p> <p>○面会時に家族へ近況報告を行うとともに、日々の介護に対する要望や意向確認を意識して行った。</p>
②ターミナルケアの取り組み。	<p>○ターミナルケアを5名実施した。</p> <p>○看取り計画書を職員が協力して作成し、計画書に沿ってケアを行った。</p>
③危機管理の徹底。	<p>○感染症予防、又は拡大防止の対応について早期に話し合いの会をもち、経過を確認しながらその都度見直しを行った。同時に各職員への周知徹底を意識して行った。</p>
④地域との交流を積極的に行い、連携を深める。	<p>○委員会を通じた活動は計画どおり実施した。その他の新しい取組については、取組がなく課題が残った。地域の「神輿見学」や「漫才見学」には少人数だが参加することができた。</p>

◎小規模多機能型居宅介護施設

目 標 項 目	実 績
①イベント開催や地域行事への積極的参加を行い、地域住民との交流を通して施設の知名度の向上、登録利用者の増加を図る。	<p>○イベントは、月見会へ多くの皆様へ参加いただき盛大に開催した。民生委員の施設見学や、ケアマネ連絡会での小規模多機能の講習を実施した。ボランティアの受入れ等を通して、事業所の宣伝活動を積極的に行った。</p>
②職員の介護レベル向上を図り、利用者及び家族に満足していただけるサービスの提供と信頼関係の構築を図る。	<p>○職員の意向を尊重しつつ、職員個々のスキルアップを目指して外部研修へ積極的に参加した。</p> <p>○毎月のスタッフ会で勉強会を行い、内部研修にも力を入れて取り組んだ。</p>

③在宅生活継続のため、利用者及び家族の支援を行う。	○管理者、ケアマネ、看護師、介護士で情報共有と連携を密にし、チームで家族の困り事の解決に取り組んだ。 ○新たに家族交流会を企画し、家族の困り事の解決に取り組んだ。
---------------------------	--

(4) 通所・訪問・居宅サービス

◎通所介護事業所

目 標 項 目	実 績
①入所や通所、訪問などのサービスと連携して、自立への働きかけと介護予防に努める。	○ショートステイ、ヘルパーをスムーズに入れるよう情報共有を行った。要支援・要介護の認定更新で要支援2から要支援1になった利用者の方に自立支援の一つとしてボランティア受入の役割をもってもらった。
②利用者の増員と確保(利用率の向上)に取り組む。	○通所介護事業所意見交換会(10/27)を開催。 ⇒参加：八頭町、若桜町のケアマネージャー等22名 ⇒効果：利用者(要支援者)増加 割合ー要支援1：10月3%→3月7% 要支援2：10月12%→3月20% 若桜町の利用者増加 ○既存利用者の利用回数増の継続的見直し実施。
③利用者が一日の活動を自己選択し、生き生きとした活動を展開する。	○複数のレクリエーションメニューを提供し利用者が選択し好みのレクリエーションに参加できる体制を整えた。
④家族会を充実させて、家族とのコミュニケーションを深める。	○家族会の開催なし。 ○送迎時等随時、報告、連絡、相談をし情報共有実施。
⑤栄養科と連携し、昼食に季節メニューや誕生日メニューを入れる等の工夫をする。	○季節メニュー、誕生日メニューを実施した。 ○栄養科職員と協働して「利用者の生の声」を直接聞いてメニュー等に反映した。
⑥理学療法士の指導の元に、機能訓練室のマシーンを十分に活用し運動機能の維持向上に努める。	○マシーン訓練の希望者が増え、それぞれに合ったマシーン訓練を実施した。 ○運動機能維持向上を目指した訓練の成果として要支援及び要介護状態の改善者があり事業所評価加算の算定が可能となった。

◎通所リハビリテーション

目 標 項 目	実 績
①利用者の生活機能の維持向上をめざしたりハビリに努める。	○洗濯干しなど具体的な生活動作を内容とする訓練を実施した。 ○脳トレーニングで書写、パズル、計算問題等を提供し認知症予防、脳の活性化に取り組んだ。
②デイサービスや在宅介護、訪問などのサービス事業所と連携して総合的に支援し、家族の介護負担の軽減に努める。	○安心、安全な在宅生活ができるように介護支援専門員、ヘルパー等と利用者宅を訪問して助言などの対応をした。 ○理学療法士等と相談員が利用者宅を訪問して生活環境(建物、生活動線など)を確認して利用者、家族に介護方法等の指導を行い介護負担の軽減を図った。

③理学療法士と作業療法士による専門的なリハビリテーションを行う。	○理学療法士等と相談員が利用者宅を訪問して生活環境（建物、生活動線など）を確認して利用者、家族状況に合ったリハビリテーションを行った。
----------------------------------	---

◎訪問介護事業所

目 標 項 目	実 績
①利用者が在宅生活を続けられるよう、地域包括支援センター・居宅介護支援事業所等の関係機関と連携を図る。	○利用者の特変、入院等に際して居宅介護支援事業所、包括支援センター等関係機関と連携して対応した。

◎居宅介護支援事業所

目 標 項 目	実 績
①市町村、医療(病院)等の関係機関との連携を図る。	○利用者の入退院時、医療機関、介護保険事業者等と情報交換し、連携を図った。 ○利用者の病院受診等に同行、主治医との情報交換を行うなどして状態把握した。 ○困難事例の対応を市町村等関係機関と協働して行った。
②国の通知、算定基準等を正確に把握し、居宅介護支援における運営基準を遵守する。	○介護保険改正に伴う研修会参加し、国の通知・算定基準等を正確に理解、把握して適正に運営した。
③多様に変化する介護保険制度を円滑に実施するために研修会や勉強会に積極的に参加し、介護支援専門員として資質の向上を図る。	次の研修等に参加し資質の向上を図った。 ○八頭町地域包括支援センター主催の介護支援専門員連絡会（研修、勉強会）に参加。 ○鳥取県社会福祉協議会主催の研修会参加。 ○介護支援専門員実務従業者基礎研修へ参加。

(5) ケアハウス

目 標 項 目	実 績
①自立支援と介護予防への取り組み。	○自立を維持いただくよう毎日健康体操の実施。 ○日々の安否確認、体調の観察による予防支援。 ○栄養科のアレルギー等を配慮した食事の提供。 ○天候に気を遣いながら、外へ出ることの援助（大人数で、遠足、花見、紅葉狩り等を法人の車輛で実施） ○足湯の実施。 ○介護補助器等の利用による歩行の維持と転倒予防。介護補助器の正しい使用方法の指導等。 ○自立の維持を継続するためケアマネ、ヘルパーと相談員の連携強化。
②施設内におけるレクリエーション開催。	○レクリエーションの開催。 お茶会、喫茶の日、映画鑑賞、カラオケ、囲碁・将棋オセロ・トランプ等・その他各人の趣味、特技を活かした取組を企画。

③衛生管理(安全)。	<ul style="list-style-type: none"> ○毎日館内清掃の実施。 ○消毒の徹底。メディカルケアウォーターによる殺菌。 ○感染症予防。手洗い・うがい・マスクの着用促進。 感染症発生時は、マニュアルに沿った適切な対応を実施。 (平成 27 年 2 月ノロウイルス発生、適切な対応により拡大を防ぎ、2 名の発症者も無事完治となり終了した。)
④災害管理。	<ul style="list-style-type: none"> ○避難訓練の実施。平成 26 年度訓練を、2 回予定していたが 1 回に終わった。今後は夜間等も想定し訓練を実施する。
⑤人材育成。	<ul style="list-style-type: none"> ○資格チャレンジに対する意欲が職員により異なった。 ○法人内研修には積極的に参加したが、外部研修の参加が少なかった。 外部研修参加等の意欲が希薄であったことを反省し、今後は全員が目標を立て、特に外部研修に多く参加したい。